



公益社団法人  
福島相双復興推進機構  
(福島相双復興官民合同チーム)

資料7

# 福島相双復興官民合同チームの取組状況について

2 0 2 3 年 3 月

公益社団法人  
福島相双復興推進機構  
(福島相双復興官民合同チーム)

# 福島相双復興官民合同チームの体制

## <福島相双復興官民合同チーム>

チーム長(相双機構理事長)	北村 清士 (株式会社東邦銀行 顧問)
副チーム長	片岡 宏一郎 (経済産業省福島復興推進グループ長)
構成員数	275名 (うち、常駐員：215名) 発足当初は140名

### 公益社団法人 福島相双復興推進機構

経産省 (23) ・農水省 (3) ・  
福島県 (11) ・民間企業等 (165)  
※ ( ) 内は構成員数

総務調整グループ

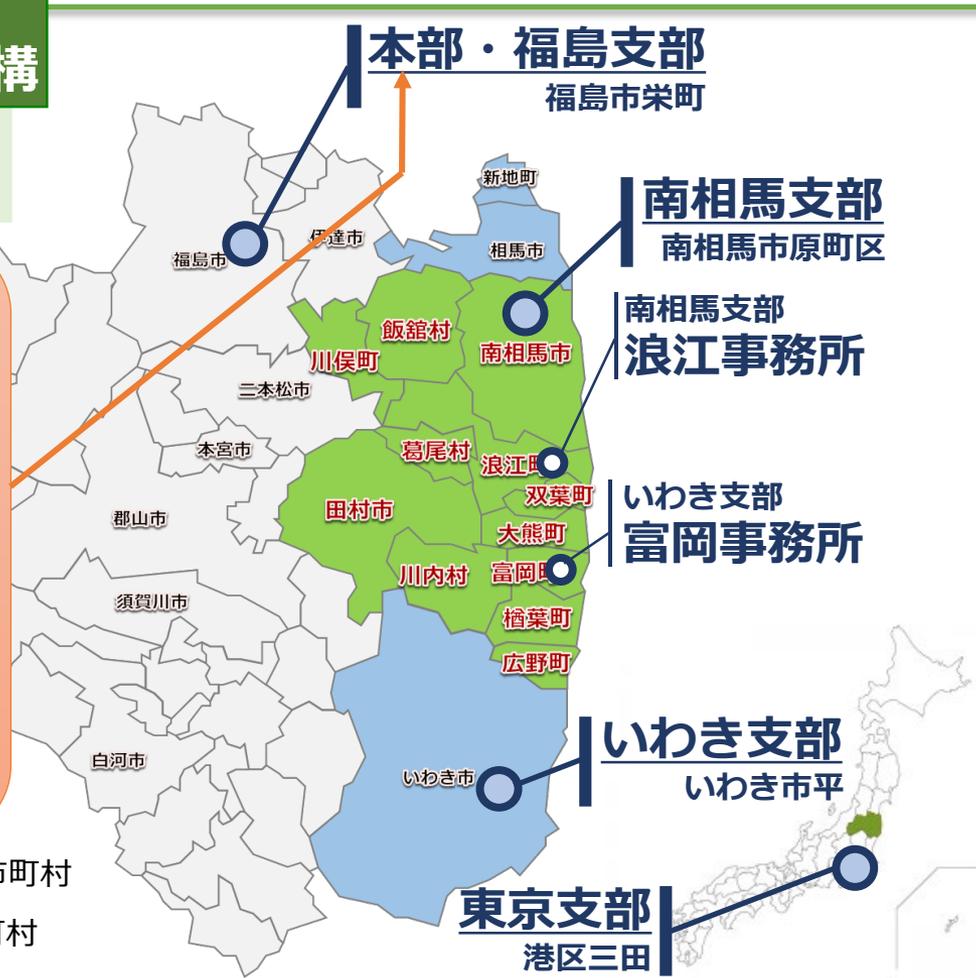
事業者支援グループ

水産販路等支援PT

営農再開グループ

産業創出グループ

広域まちづくりグループ



福島県  
(農林水産部)  
(35)

内閣府原子力  
災害対策本部  
(農林水産省)  
(19)

(独)中小企業  
基盤整備機構  
(17、うち常駐員:13)

※ ( ) 内は構成員数

2023年2月1日現在

# 官民合同チーム 五箇条

第二期復興・創生期間において、現場主義を徹底して復興への取り組みを進めるとともに、相双地域に新しい価値を創出することを目指して、官民合同チームの行動規範を次のとおり進化させる。

(2021年6月1日)

## 一、労を惜しまず、とことん取り組む

事業・なりわい・生活の再建と自立、地域の発展のために、自分事として、労を惜しまず、とことん取り組む。

## 一、謙虚にお話を伺い、真の思いを理解する

被災された方々の御苦労を胸に刻み、謙虚にお話を伺い、真の思いを理解する。

## 一、対話を深め、広い視野で提案する

対話を深め、全体を俯瞰する広い視野を持ち、復興の状況に応じた最適な施策を提案する。

## 一、チームワークを高め、関係機関と協働する

チームワークを高め、関係機関と協働することで、多様なネットワークと専門性を総動員し、成果を追求する。

## 一、「希望の地」を目指して、新たな取り組みに挑戦する

高い志を持って、「希望の地」を目指し、失敗をおそれず、新たな取り組みに果敢に挑戦する。

“相双の復興なくして福島の復興なし。福島<sup>の復興なくして</sup>日本の再生なし。  
復興のその先にある未来へ”

# 官民合同チームの歩み及び主な業務

- 2015年6月の閣議決定に基づき新たな支援主体（官民が一体となったチーム）として創設。
- 被災事業者の事業再開支援、営農再開の支援、水産業関係の支援等に加え自治体や商工会等と連携したまちづくり支援や交流人口拡大等に資する取組を実施。
- これまで、累計で約5,700者の事業者・約2,500者の農業者を個別訪問。

(2023年2月1日時点)

2015年

2016年

2017年

2018年

2021年

官民合同  
チーム創設  
(8月)

公益社団  
法人化

福島・南相馬・いわき・  
東京拠点を支部化

福島特措法に位置付け

富岡事務所  
浪江事務所  
の設置

北村チーム長  
(相双機構理事長) 就任

水産販路等支援  
プロジェクトチームの設置

第2期復興・創生期間スタート

● 事業・なりわいの再生支援

● 営農再開への支援

● 水産仲買・加工業等  
への支援

● 生活・事業環境整備のためのまちづくり支援

● 交流人口拡大・産業発展に係る支援

個人  
支援

面的  
支援

# 2022年度の取組方向性(取組強化)

## 【事業なりわい再生・産業創出支援】

### ■事業の自立・継続支援

### ■地元団体・機関との協業

#### 取組強化

質の高い支援を通じて、事業者の方々が安定経営を持続・発展することで、**より多くの事業再開・震災後創業に繋げるとともに賑わいを取り戻すことに貢献する**

### ■地域経済を牽引する事業者への支援

### ■産業集積の形成支援

#### 取組強化

ビッグデータの活用による**サプライチェーン強化・構築に重点を置いた地域牽引企業育成支援を展開**

### ■水産仲買・加工業等への支援

#### 取組強化

水産加工等事業者の**経営力強化支援等により、水産加工生産量の上積みを実現**

#### 取組強化

新商品開発、販路開拓支援により、**全国的なブランド化を図り、県水産品のシェア回復・拡大を実現**

## 【営農再開支援】

### ■農地集積・集約への支援

### ■高付加価値の創出

### ■小規模営農モデルの展開

#### 取組強化

担い手確保に向け、**外部からの新規参入者獲得を強化**

## 【広域まちづくり支援】

### ■エリア全体を俯瞰したまちづくりへの総合的支援

### ■関係人口拡大に向けた取組

### ■実証フィールド化への取組

#### 取組強化

住民帰還と新規移住に繋がる**魅力と活気あるまちづくり**に向け、地域を俯瞰した**提案型の総合的まちづくり支援を展開**

#### 取組強化

移住定住の裾野を拡げるため**関係人口拡大に向けた取組に注力**

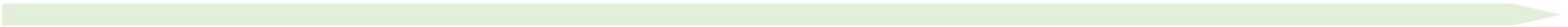
#### 取組強化

移住定住に繋げるために、**副業・兼業をキーとした地域牽引人材の呼び込み・帰還者との融和に資する取組を具体化**

#### 取組強化

民間企業等と連携した**高付加価値コンテンツ開発**

# 取組の具体例



# 水産仲買・加工業者等への支援

## 新商品開発と経営力強化支援

### 【水産関係の仲買・加工業者への支援を開始】

- ◆2021年5月に水産販路等支援プロジェクトチームを発足。新たにいわき市、相馬市、新地町を支援対象に追加し、県庁、県漁連、相双漁協、水協など関係団体に訪問開始。
- ◆相双地域及びいわき市の水産事業者を把握し、同年6月から個別事業者への訪問を開始。仲買・加工業等の事業者への個別訪問から始め、事業継続・成長のための支援に着手。
- ◆2023年1月末時点で、支援要望をいただいた事業者（60者）に対しては、販路開拓、新商品開発、人材確保等、個々の課題に応じた具体的な支援を実施。
- ◆今後は、信頼関係をさらに発展させ、経営全体の支援に繋がっていく。

### ＜販路開拓支援の事例＞



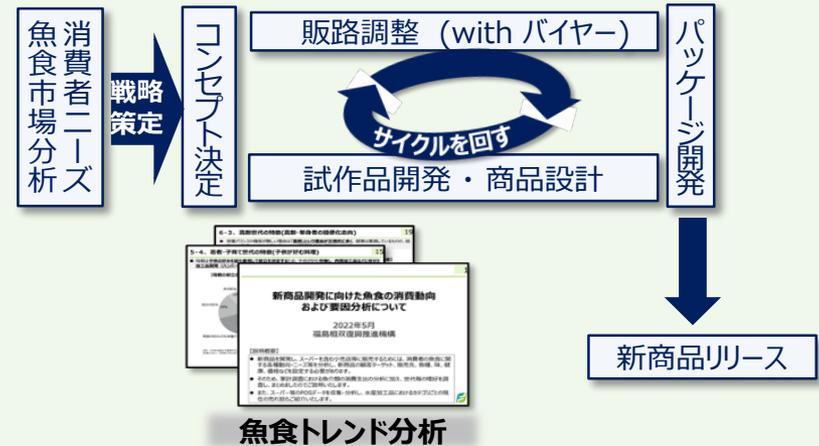
トーホーストア六甲道駅前店で販売会  
佐藤水産（相馬市）のポイル柳だこ等を販売。



阪神百貨店梅田店で販売会  
店頭並んだ海幸（かいこう・いわき市）のアンコウやヒラメの唐揚げの試食を実施。

### ＜新商品開発支援のイメージ＞

- ◆水産加工事業者の収益向上に資する支援として本格的に新商品開発に着手。
- ◆“事業者が作りた商品”から“売れる商品”へと転換すべく、量販店バイヤーの意見を開発コンセプト段階から取り入れ。



### ＜新商品の事例＞



ちぎり揚げ（岩下商店）



たこカレー（ループ食品）



# 広域まちづくり支援

## 提案型の総合的まちづくり支援

### 【原子力災害による被災市町村のまちづくり】

- ◆原子力災害による避難指示が出された地域において、昨年6月には大熊町、8月には双葉町の一部について避難指示が解除され、今後も予定されている地域があるなど、避難指示解除に向けた動きが着実に進展している中、住民帰還及び移住につながる魅力と活気ある新たなまちづくりに向け、**エリア**を俯瞰した提案型の総合的な支援を展開。

### 【双葉町に対するまちづくり支援】

- ◆双葉町の現状を分析するとともに、町長の「楽しいまち、出歩きたくなるまち」との想いを確認。
- ◆交流人口・関係人口の拡大、居住者の増加などに向け、「**回遊性のあるウォカブルなまちづくり**」を提案したところ、双葉町復興まちづくり計画（第三次）に反映。



官民合同チームが双葉町へ提案した「回遊性のあるまちづくり」

回遊ルートとアクティビティのイメージ  
「双葉町復興まちづくり計画（第三次）」より抜粋

## 関係人口拡大に向けた取組

### 【大学生観光まちづくりコンテスト】

- ◆全国の大学生が自らの知見や専門性を活かし、地域の観光まちづくりに資する「観光まちづくりプラン」を競う「大学生観光まちづくりコンテスト2022」に協力し、「**福島復興ステージ**」を設置。
- ◆現在、学生の**プラン実現化に向けたフォローアップ**を行いつつ、**参加学生の更なる関係人口化**に向け、優秀チームと関係自治体との交流会のアレンジや、Instagramによる日常的な情報発信、学生を起用したYouTube動画による情報発信等により、参加学生と12市町村との継続的な関係を構築中。



本選発表会の様子



集合写真

### 【先進的な取組を行う団体との連携】

- ◆NPO法人ETIC.と連携し、起業意欲のある首都圏の人材が12市町村の経営者の新規プロジェクトに副業として関わりながら、将来的に福島県で起業する力を身に着ける実践型プログラム「**フクシマックス**」を実施中。
- ◆“未来をつくるSDGsマガジン”ソトコトと連携し、首都圏の在住者が12市町村の未来との関り方を考える連続講座「**ふくしま未来創造アカデミー**」を開催。



「編集術」で考える地域の未来のつくり方

# 情報発信等の取組

## 情報発信にとどまらない様々な目標に向けた取組

### 【食のプロジェクト】

- ◆相双地域の食材・食の魅力の情報発信をはじめ、複数の目標を設定・達成することを目指した取組
  - 相双地域の食材・食の魅力の情報発信
  - 風評被害の払拭
  - 食材の高付加価値化・地元裨益
  - 交流推進・関係人口の増加

### <具体的な取組（2022年）>

- ・中高生夏の映画づくり体験（8月・双葉町）における相双地域の食の魅力発信
- ・アウトドアオフィス&福島のを堪能するFoodCampを開催（11月・楡葉町）



FoodCamp  
（11月・楡葉町）



相双地域の食材を使用した料理



### 【ふたばワールドへの出展】

- ◆震災前から続く双葉郡の伝統行事ふたばワールド（2022年9月開催）に相双機構としてブース出展。
- ◆相双地域及びいわき市で活躍される方々の「地域に対する思い」にフォーカスしたインタビュー動画10本を製作し、放映。



畜産業って楽しいんだよ（吉田 愛梨朱さん・葛尾村）【人と土地と、ともに】



有機栽培で安全安心と笑顔を届ける（新妻 秀平さん・広野町）【人と土地と、ともに】

### 【福島・ドローンの情報発信】

- ◆Japan Drone（幕張&福岡）、ドローンサミット（神戸）、ふくしまSDGs博（郡山）に出展し、福島のドローン事業者のビジネス機会創出と福島ロボットテストフィールド（RTF）をPR（福島県庁・RTFと連携して対応）。

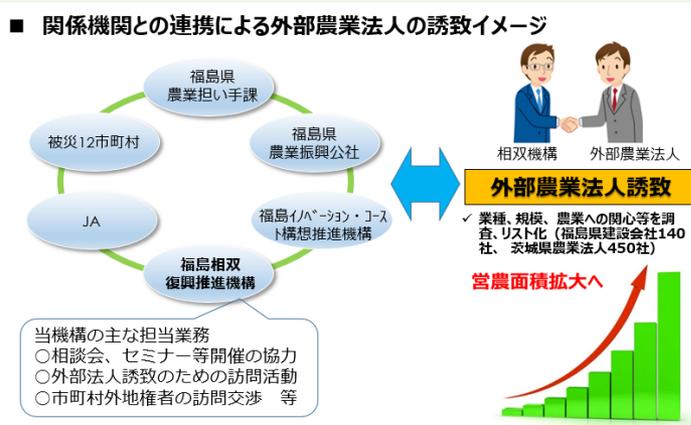


# 営農再開支援及び事業者支援

## 外部からの新規参入に向けた支援

### 【外部からの新規参入支援】

- ◆ 営農再開を希望しない農業者が4割程度を占める中、営農再開の加速化に向けて、再開農業者の規模拡大に加え、関係機関（福島県、イノベ機構、JAなど）と連携し、外部からの農業法人の新規参入を促進する取組を実施。
- ◆ 2022年度から、外部農業法人に対して積極的に新規参入を促すべく、関係機関と連携して県内の市町村や近隣県をはじめとした全国的な誘致活動を展開。リストの作成（福島県建設会社140社、茨城県農業法人約450社）やパンフレットの作成・配布、訪問活動などを実施。



## 農産物の販路拡大に向けた取組

### 【農産物の新たな流通・販売体制の構築】

- ◆ 葛尾村（2021年10月）・飯舘村（2022年3月）で、仲卸業者の協力を得て、農産物の村外への新たな流通・販売体制を構築。



初出荷の様子（葛尾村）



初出荷の様子（飯舘村）

## 各まちのご紹介資料の作成

### 【各まちの今を伝えるご紹介資料】

- ◆ 各まちの開発状況、住宅情報、商業施設、働く人々、移動手段、アクセス等を紹介する資料を作成し、避難先の事業者に配布。
- ◆ 帰還のための課題を伺い、丁寧に対応。



双葉町の状況を紹介する資料